

今年はお穂期が遅かった影響で、成熟期は昨年より遅くなると見込まれます。一方で、お穂期以降は高温条件下で進んだため、刈遅れによる胴割米の発生が懸念されます。

収穫直前まで適切な水管理を実施すると共に、籾黄化率80%から刈取りを開始し、立毛胴割れを防ぎましょう。また、適切な乾燥・調製により、胴割米等による品質低下を防ぎましょう。

## 1 適切な管理の徹底

- (1) 刈取りの5～7日前までは、「間断かん水」を行い、ほ場内での胴割米の発生を防止しましょう。  
※フェーン等の高温乾燥が予想される時は、事前に入水し、稲体の活力を維持しましょう。
- (2) 収穫前にほ場を巡回し、クサネムや水稻の異茎株を確実に抜き取りましょう。



## 2 適期刈取りの励行

表 1 出穂期からみた刈取適期の目安

出穂期	刈取始め(籾黄化率80%)
8月3日	9月8日頃～

### ●籾黄化率80%からの刈取り

- (1) コシヒカリより籾の黄化がやや遅くなる傾向があります。胴割米の発生を防止するため、刈り遅れに注意しましょう。
- (2) ほ場ごとに籾の黄化状況を必ず確認しましょう。
- (3) コシヒカリと同程度の黄化であれば「富富富」を優先に刈取りましょう。



(籾黄化率 80%程度の籾)

## 3 適切な乾燥調製

- (1) 玄米水分14.5～15.0%に仕上げましょう。  
(毎時乾減率0.8%以下での乾燥とし、手動水分計でこまめに測定して仕上げましょう。)
- (2) 1.9mmのふるい目による選別を徹底し、状況に応じて色彩選別機を活用しましょう。



～秋の農作業安全運動実施中(10月20日まで)～